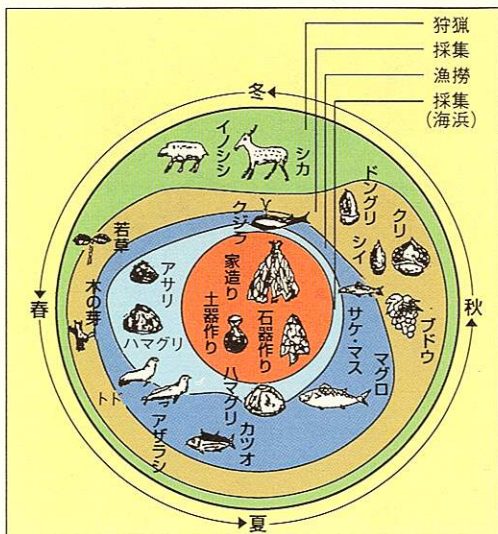


3

多摩川中流域の縄文時代

■縄文時代とは

縄文時代は、使われた土器の多くに縄目文様があることからこの名前がある。この時代の人びとはまだ本格的な農耕や牧畜を行わず、その食生活は、鳥や獣をとらえる狩猟、水産物をとる漁撈、そして木の実などの採集に頼っていた。ただ旧石器時代とは異なり、弓矢が使われるようになったことから、狩猟の方法が進歩し、また土器を使うことによって、食糧を煮炊きしたりすることができるようになった。

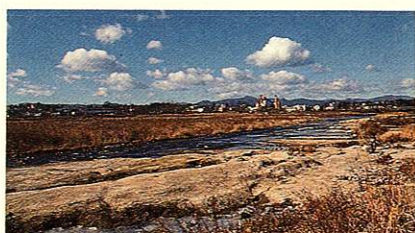


縄文時代の人々の生活カレンダー

人びとは地面を掘り込んでつくったたてあな竪穴式住居に住み、集落を形成していた。時代が進むにつれて、集落内は居住区域や墓地といった場所を区別し、大型化していった。このことは、人びとが規律と秩序をもった共同体をつくっていったことを示しているといえる。またこのころは、まじないや祈りといった呪術が支配していた時代であると思われる。狩猟や採集が中心の生活は、自然環境に左右されることが多かったからであろう。人体の形を表現した土製品である土偶や、一端あるいは両端が瘤状にふくらんだ棒状の石製品である石棒せきぼうなどのような、日常生活ではあまり使われないと思われる道具が出土していることから、人びとが呪術によって自然の恵みを乞い、災いを避けようとしていた姿を想像



13号遺跡集石土坑 食料を蒸し焼きにするために使用されたと考えられる集石土坑は、多摩川流域の遺跡から数多く確認されている。福生市内でも長沢遺跡や不動尊遺跡から確認されている。



現在の多摩川(平井川との合流付近) 長沢遺跡と昭島市龍津寺東(りゅうしんじひがし)遺跡とは約4kmの間隔があり、他の遺跡間に比べやや離れている。この間は川の合流点のため、氾濫しやすく、そのため集落が形成されなかったのであろうか。

することができ。

■多摩川沿いの集落

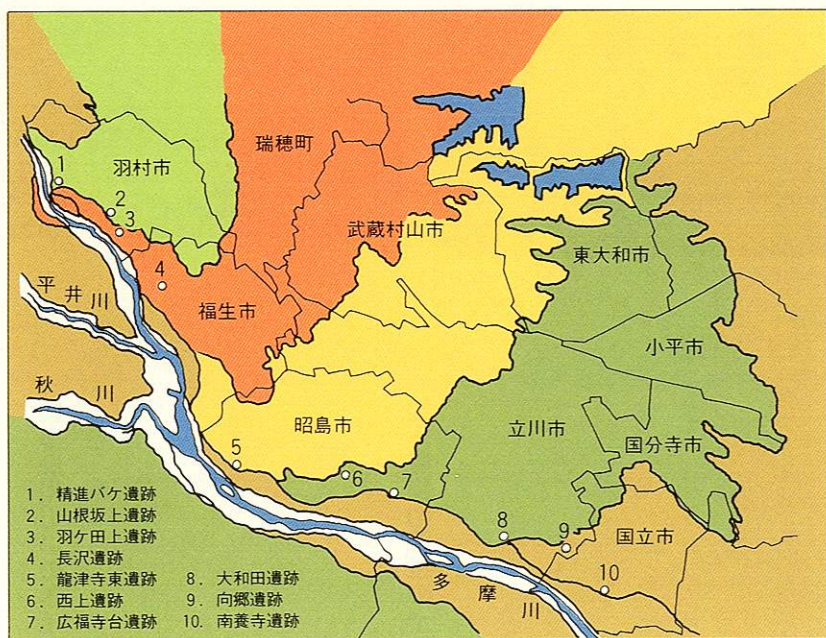
縄文時代の文化は中期を中心に栄えたが、その時期の遺跡を多摩川中流域の左岸にも数多くみることができる。この地域でも、このころがもつとも集落の規模が大きく、文化が栄えた時期で、上流の羽村市精進バケ遺跡から国立市南養寺遺跡までのあいだに、一〇の遺跡が二〜五キロの間隔で確認されている。

これらの集落がすべて同じ時期に営まれていたわけではないが、かなり近い距離で集落が接していることから、雑木林のクリ、ドングリ、小動物といった食糧資源の豊富な自然がこの地域にあったことが想像できる。

■多摩川中流域の土器

多摩地域の縄文時代中期を代表する土器は、古いものから順にあげると、五領ヶ台式土器、勝坂式土器、加曾利E式土器を中心として、これに東部関東地方の遺跡から出土する阿玉台式土器や中部山岳地方の曾利式土器がまじっている。平行線の文様を特徴とする五領ヶ台式土器は中期初めの形式であるが、多摩川中流域の左岸では、この土器を使用した時期の生活の跡は、福生市内の長沢遺跡で炉の跡がみつかったにすぎない。

この地域で本格的な集落がつくられはじめたのは、中期前半にあたる約四〇〇〇年前、はでな把手や立体的な装飾で有名な勝坂式土器期に入ってからのもので、これらの集落の多くが、のちの渦巻の文様を特徴とする加曾利E式土器が使われた時



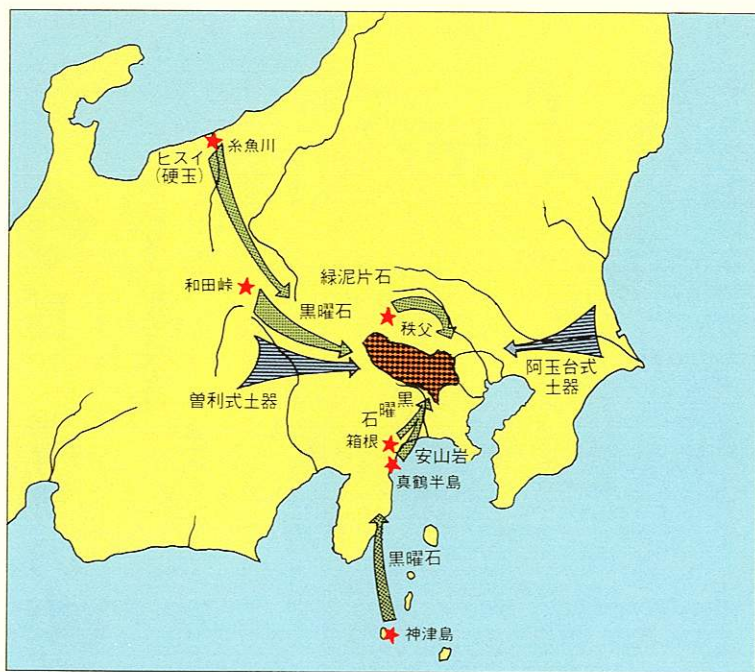
多摩川中流域の縄文時代中期の主要遺跡分布図

代、すなわち中期後半へと受け継がれ、長い期間にわたって人びとが生活していたことがわかる。

■広い範囲の活発な交流

そのころの生活に使う道具などは、基本的には集落ごとの自給自足によってまかなわれていたが、自分の集落で手に入らないものは、交易によって手に入っていた。なかでも黒曜石がとくに有名で、福生市内の長沢遺跡でも黒曜石のやじり（石鏃）やその破片などがみつかっている。

黒曜石はハンマーのようなもので打撃を加えると、するどい刃が得られるので、狩猟用具や工具として利用された。産地には長野県の八ヶ岳山麓の和田峠、箱根、伊豆の神津島などがあり、これらの産地から、いくつかの集落や人びとを通じて長沢遺跡にもち込まれたものであろう。このほかに、交易の対象となったものに土器がある。交易品を入れたり、土器そのものを交易品としてもち込んだのである。長沢遺跡でも、利根川下流域の関東東部を中心に分布する阿玉台式や、長野県八ヶ岳西南麓にかけ



他地域から運ばれた土器や石材(東京都教育委員会『発掘物語』参考)

て分布する曾利式などの土器がみつかったりすることから、よその地域と活発な交易が行われていたに
ちがいない。また、その地域にかかわる人たちがやってきたとも考えられる。このように、これらの



石鏃(チャート製) チャートはこの地域で採取できる加工しやすい石材で、黒曜石と同様鏃(やじり)として多く使用された。



石鏃(黒曜石製) 交易品である黒曜石は貴重な石材であり、加工すると鋭利な刃となるので、鏃(やじり)として多く使用された。

黒曜石や土器などの分布から、わたしたちは縄文時代の人がとが広い範囲にわたって交易を行い、特産品や人間を通じて、文化や技術、情報の交換を活発に行っていた姿を知ることができる。